



夢☆きらめに

No.
2

加東市／加東市人権・同和教育研究協議会 平成18年12月1日



加東市同教公開授業10/13 東条東小学校

目 次

- | | |
|-----------------------|---------------------------|
| ● 第三十八期人権文化大学…… 2・3 | ● 人権啓発作品展 ……………… 7～10 |
| ● 住民学習・集会所だより……… 4 | ● 心あつたかいフォーラム……… 11 |
| ● じんけんきょういくレポート…… 5 | ● 男女共同参画社会の実現を目指して… 12・13 |
| ● 学校教育・ポエム・新作ビデオ紹介… 6 | ● 中学生の人権作文…………… 14～17 |

人権尊重の文化あふれる加東市に

加東市教育長 増田 種男

加東市となり、初めての年の瀬を迎えることとなりました。市民の皆様には、子どもの登下校時の見守り隊をはじめ、地域での人権学習等、安全で住みやすいまちづくりにご理解、ご協力を頂きましてありがとうございます。

さて、十二月は「人権週間」の月となっています。この「人権週間」は、

二度の世界大戦の反省に立ち、人権の尊重と世界の平和をめざし、国際連合が「世界人権宣言」を採択したことについて、設けられたものです。しかし、二〇〇一年アメリカで起きたテロをはじめとして、昨今の世界情勢は必ずしも明るいニュースばかりではありません。改めて、世界平和と人権の尊重が最重要課題であるということを強く認識いたします。国内でも、幼い命が奪われる事件の急増や、高齢者虐待など本当に多種多様にわたる人権問題が起っています。

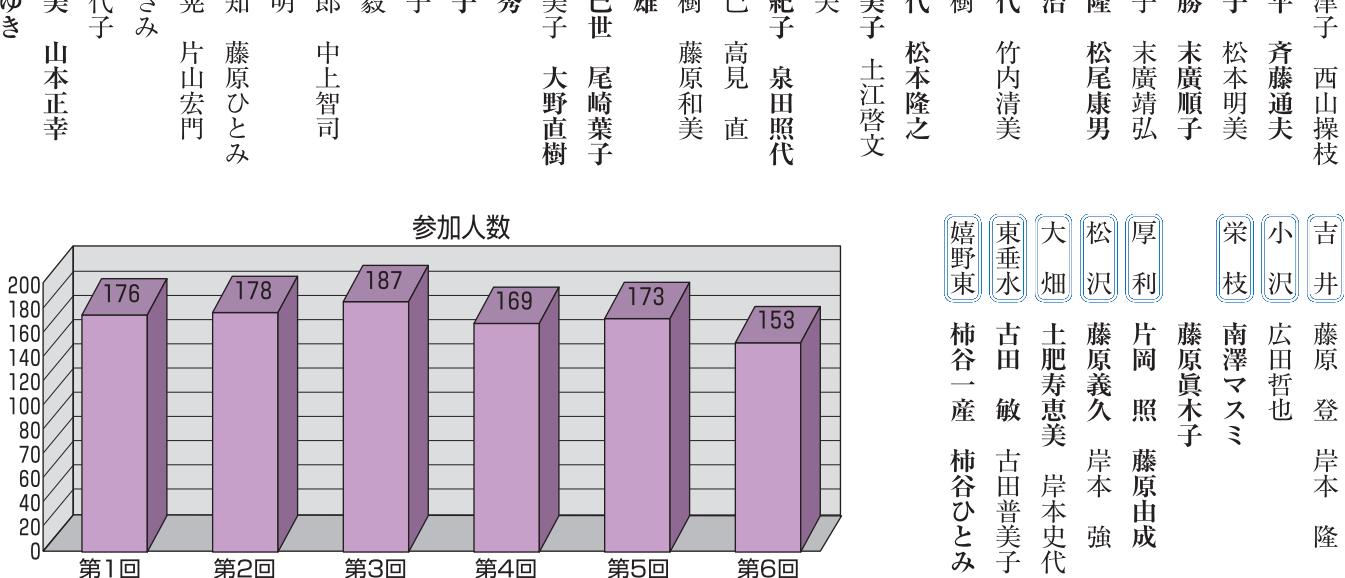
このような状況に対して、加東市においては、今までにもまして、人権尊重の理念に基づいたまちづくりを展開していくことが重要です。誰もが安全に安心して、そしてお互いを認め合って生きることのできる地域、子どもたちが元気で健やかに育まれるそんな加東市をめざしていきます。

**第三十八期人権文化大学
参加者延べ千人を
越え閉講!!**

第三十八期人権文化大学を
全六回、七月から九月にわたり、各地区からご推薦いただきま
した二三五名の受講生と
当日一般参加の方々に、様々
な人権課題について学習して
いただきました。そして、五
回以上出席の一七二名の方に
修了証をお渡しいたしました。
皆さまには、学んでいただ
いたことを各地区やご家庭で
お話しいただき、人権教育のリ
ーダーとしてこれからもご活
躍をお願いいたします。

☆修了者名簿☆
(太字は全出席者)

社一区	藤原正明	来住裕一	西古瀬	中古瀬	東古瀬	大門	福吉	喜田	上中	西垂水	野村	鳥居	田中	出水	松尾	藤本秀樹		
社二区	田辺洋士	梶原英哉	西山容明	村上盛男	社四区	西山未治	内藤政則	小堀志げ子	蓬萊千恵子	上田	沢部団地	大村 優	藤本孝之	貝原	中嶋由佳	下久米	田中英樹	
社五区	中西義明	服部 進	西山高男	堀内武久	社五区	高岡	河高	小林美佐子	蓬萊節子	石角昌博	西角昌博	森本義隆	時井敏彦	高橋茂樹	岸本八千代	西山真二	伊藤隆章	
嬉野団地	桑崎民子	伊藤雅之	藤原元師	丹生司祥	新町	光明寺	下滝野	上石俊之	時本秀子	上鴨川	下鴨川	吉馬	馬瀬	藤本正敏	藤原絹代	三村次夫	西山勉	
池之内	龜渕	畑	東実	屋度	東古瀬	河高	高岡	小堀志げ子	蓬萊千恵子	中谷真幸	中谷真幸	長谷川茂	牧野	木梨	木梨	大西兼人	大西正次	
上久米	藤原喜子	鷹尾正彦	小林保代	宮崎幸代	新定	少分谷	横谷	藤本保宏	藤本玲子	大久保敏博	神田啓三	中村敏一	坂田 清	藤田	藤田	曾我	稻尾	
	伊藤定範	吉田多津子	西山操枝	吉田多津子	吉	黒谷	永福台	藤本玲子	藤本玲子	後藤まり	阿江幸巳	白石広昭	楠健太朗	松井雅勝	松井雅勝	北野	北野	
		吉井登	岸本 隆	吉井登	利	天神	森	藤本貴美子	藤本貴美子	大野直樹	大野直樹	志波ア津子	丸山姫妃	荒木貞雄	荒木貞雄	片岡照	穗積	
		藤原登	岸本 隆	藤原登	枝	井	岡本	岡口史郎	岡田賀子	岡田賀子	宇高千代子	宇高千代子	藤田敬子	藤田敬子	藤原由成	藤原由成	吉田多津子	吉田多津子
		岸本 隆	吉井登	吉井登	南	井	森	門口史郎	山下善知	山下善知	陰山直敬	陰山直敬	藤原ひとみ	藤原ひとみ	吉田多津子	吉田多津子	吉田多津子	吉田多津子
		岸本 隆	吉井登	吉井登	澤	田	横谷	中上智司	松尾孝明	松尾孝明	丸山篤美	丸山篤美	白石広昭	白石広昭	吉田多津子	吉田多津子	吉田多津子	吉田多津子
		吉井登	吉井登	吉井登	南	田	岩屋	岡本	山羽 素	山羽 素	岩佐富男	岩佐富男	藤井啓子	藤井啓子	吉田多津子	吉田多津子	吉田多津子	吉田多津子
		吉井登	吉井登	吉井登	澤	田	森	森	小川あさみ	小川あさみ	青山 薫	青山 薫	藤原峻一郎	藤原峻一郎	吉田多津子	吉田多津子	吉田多津子	吉田多津子
		吉井登	吉井登	吉井登	南	田	岡本	岡本	田尻和晃	田尻和晃	菅野裕子	菅野裕子	丹生司祥	丹生司祥	吉田多津子	吉田多津子	吉田多津子	吉田多津子
		吉井登	吉井登	吉井登	澤	田	森	森	片山宏門	片山宏門	伊藤雅之	伊藤雅之	桑崎民子	桑崎民子	吉田多津子	吉田多津子	吉田多津子	吉田多津子
		吉井登	吉井登	吉井登	南	田	岩屋	岩屋	岸本みゆき	岸本みゆき	藤原輝美	藤原輝美	藤原元師	藤原元師	吉田多津子	吉田多津子	吉田多津子	吉田多津子



まなび愛・わかち愛 ～人権文化大学参加者 アンケートから～

参加者の方々に各回ごとにアンケートをお願いしています。アンケートの中に、新たな気づきや発見、そして自分の生き方の再点検など様々な思いが綴られています。

この場をかりまして、少し紹介をしたいと思います。

以外に大切にしなければならないものは何なのかを考えるきっかけを与えてくださったように思います。ありがとうございました。

(20代・男性)

第二回目

ノーマライゼーション
(共に生きる)

社会の現実に向けて

高橋 明

普段、人権・同和問題について忘れて生活している状態を改めて、日々勉強しなければ、家庭の中でもいけないことだと思った。今の社会は、自己中心である。住みよい社会を作らなければ、家庭の中でもいけないことだと思つた。

この社会は、自分以外はいけない。家庭の中から一人一人が気を付けていかなければならない。あたたかい言葉が大事。

(40代・女性)

幸せにするもの。大切にしたいです。人の欠点を探すことよりも、よりよいところを先に見つけ、お互い認め合う大切さがとうございました。

(40代・女性)

第四回目

学び合いから見えてくるもの

塚本一男

感動した。障がい者に対する自分の考え方、見方に對して、まさしく「目から鱗が落ちた感がある」とはこの事です。(60代・男性)

私も障がいを持つている者ですが、現在も健常者と共に働けておりますことに感謝しております。(男性)

本当に良かつたと思いました。私は、今年から大学院で「特別支援教育」について勉強しています。今日の話を聞かせて頂き、高橋さんのように障がいのある人の共生のために貢献していくたいと思います。

(20代・女性)

第五回目

親しき仲にも人権あり
茂木美知子

非常に具体的でわかりやすかったです。(50代・男性)

かつたと思います。一つ一つの事例ですが、考え方や取組み方が先生の考え方をもとに示されている点がよかったです。一般論や資料にたかつた。一般的な意見を見を堂々と述べるようになることも一つの目標にしたいと思いました。多くの部落差別の講演の中でようやく心に響く内容を聞けたと思います。考え方だけではなく、自分の意見を堂々と述べるようになることもあります。

(50代・女性)

学びました。(60代・女性)

(40代・女性)

第六回目

「ともに生きる」

人間関係をとおして

好岡輝寿

当然の話なのだが、なかなか素直にできない。もう一度、素直な気持ちをもつて取組まねばと思いました。

(50代・女性)

私は、五歳と三歳の子どもをもつ父親です。今回のお話をの中で、「人権感覚」というお話をありました。「体験からしか人権感覚は身に付かない」ということに同意です。子どもたちに正しく生きてもらうためにも自分が正しい人権感覚を磨くべきだと感じました。希望としては、子育て中の親への今からでも遅くないといふメッセージが欲しいです。

(30代・男性)

第三回目

笑いとすこやか人生

三遊亭楽団治

普段、人権・同和問題について忘れて生活している状態を改めて、日々勉強しなければ、家庭の中でもいけないことだと思つた。

この社会は、自分以外はいけない。家庭の中から一人一人が気を付けていかなければならない。あたたかい言葉が大事。

(40代・女性)

普段、人権・同和問題について忘れて生活している状態を改めて、日々勉強しなければ、家庭の中でもいけないことだと思つた。

この社会は、自分以外はいけない。家庭の中から一人一人が気を付けていかなければならない。あたたかい言葉が大事。

(40代・女性)

第一回目

「人権文化の創造」

堀井隆水

普段、人権・同和問題について忘れて生活している状態を改めて、日々勉強しなければ、家庭の中でもいけないことだと思つた。

この社会は、自分以外はいけない。家庭の中から一人一人が気を付けていかなければならない。あたたかい言葉が大事。

(40代・女性)

第二回目

ノーマライゼーション
(共に生きる)

社会の現実に向けて

高橋 明

普段、人権・同和問題について忘れて生活している状態を改めて、日々勉強しなければ、家庭の中でもいけないことだと思つた。

この社会は、自分以外はいけない。家庭の中から一人一人が気を付けていかなければならない。あたたかい言葉が大事。

(40代・女性)

第三回目

笑いとすこやか人生

三遊亭楽団治

普段、人権・同和問題について忘れて生活している状態を改めて、日々勉強しなければ、家庭の中でもいけないことだと思つた。

この社会は、自分以外はいけない。家庭の中から一人一人が気を付けていかなければならない。あたたかい言葉が大事。

(40代・女性)

第四回目

学び合いから見えてくるもの

塚本一男

感動した。障がい者に対する自分の考え方、見方に對して、まさしく「目から鱗が落ちた感がある」とはこの事です。(60代・男性)

私も障がいを持つている者ですが、現在も健常者と共に働けておりますことに感謝しております。(男性)

本当に良かつたと思いました。私は、今年から大学院で「特別支援教育」について勉強しています。今日の話を聞かせて頂き、高橋さんのように障がいのある人の共生のために貢献していくたいと思います。

(20代・女性)

第五回目

親しき仲にも人権あり
茂木美知子

非常に具体的でわかりやすかったです。(50代・男性)

かつたと思います。一つ一つの事例ですが、考え方や取組み方が先生の考え方をもとに示されている点がよかったです。一般的な意見を見を堂々と述べるようになることも一つの目標にしたいと思いました。私は、今年から大学院で「特別支援教育」について勉強しています。今日の話を聞かせて頂き、高橋さんのように障がいのある人の共生のために貢献していくたいと思います。

(50代・女性)

第六回目

「ともに生きる」

好岡輝寿

当然の話なのだが、なかなか素直にできない。もう一度、素直な気持ちをもつて取組まねばと思いました。

(50代・女性)

私は、五歳と三歳の子どもをもつ父親です。今回のお話をの中で、「人権感覚」というお話をありました。「体験からしか人権感覚は身に付かない」ということに同意です。子どもたちに正しく生きてもらうためにも自分が正しい人権感覚を磨くべきだと感じました。希望としては、子育て中の親への今からでも遅くないといふメッセージが欲しいです。

(30代・男性)

じんけんのひつけ

～地区住民学習報告～

地域交流を図り、人権意識を高める地域づくり

同和問題を核にした
交流学習会

集会所だより

人権文化創造活動支援事

四年 西田 郁美

業の取組で、社小学校区の児童対象に、「風の子学級」が毎週木曜日に実施されています。

夏休みに、保護者と生徒が一緒になり、川柳を作りました。その作品の一部を紹介いたします。

四年 前田 葵

いもうとと夜空たのしむおも

トおいしいよ

おかげさん料理作るのうまい

五年 柴垣誠矢

おかげさん料理作るのうまい

六年 高橋由依

お魚のさしみがきらいお父さ

七年 潮 優太

おかげさんもおとうさんも

八年 深川あかり

おかげさんはばそこんがすき

九年 柴垣千隼

いいすがすき

十年 前田美聰

おじいちゃんはばそこんがすき

十一年 中西孝之

おじいちゃんがすいかをくれ

十二年 潮 優雅

おじいちゃんがすいかをくれ

十三年 西田 寿美

おじいちゃんがすいかをくれ

十四年 西田 京子

おじいちゃんがすいかをくれ

十五年 西田 和紀

おじいちゃんがすいかをくれ

十六年 高橋和希

おじいちゃんがすいかをくれ

十七年 西田 京子

六月より社会教育推進委員がリーダーとなり、各地区で住民学習会を創意工夫して実施しています。

その中の報告書より少しご紹介していきたいと思います。

安全で安心な五区まちづくりマップの作成

秋津台では、住民のふれあい交流と学習の二本柱で住民学習会を実施しています。

その中の報告書より少しご紹介していきたいと思います。

安全で安心な五区まちづくりマップの作成

秋津台の住民が演奏する手作りコンサート「森のコンサート」を5月に開催した。

春のクリーンキャンペーンでは、地域内のゴミ拾いをしました後、なかよし広場で、バーべキューパーテイーをして交流を図った。

社会教育推進委員より説明があり、3ブロックに分かれ、人権を守るまちあるきを行つた。防犯や防災の視点から、まち歩きをしながら危険箇所を話し合い、差別落書きについても調査した。また、通学路の安全について、見守り隊より、「子ども見守り隊」と子どもとの間で、あいさつができるようになった」「子どもとのふれあいを楽しみにしている高齢者が多い」などの意見も多かったです。



社会教育推進委員の皆様へ

住民学習が終了いたしましたら、実施報告書を事務局まで、ご提出願います。

じんけんきょういくレポート

第53回 兵庫県人権教育研究大会
東播磨大会

第53回 兵庫県人権教育研究大会
中央大会

先生たちもがんばっています!
(第十二期人権文化セミナー)

教職員対象の人権教育の研修会を実施いたしました。

10月20日を皮切りに、三回実施しました。延べ120人を越える参加者でした。

今年は、保育園の先生方に呼びかけたところ、夜分にもかかわらず、熱心に研修していただきました。

も呼びかけたところ、夜分にもかかわらず、熱心に研修していただきました。

第一回目は、教育サポートの一の仲島正教さんに「あーよかつたなあなたがいて」と題して人権教育の必要性を自身の体験とともに熱く語つていただきました。

第三回目は、元シドニーオリンピック車椅子バスケット総合監督、現NPO法人障害者スポーツ支援センター理事長 高橋明さんに「ノーマライゼーション(共に生きる)社会の実現に向けて」という題で、実際に障がい者のスポーツについてお話しいただきました。パラリンピックの映像や、高橋さんが監修されたドコモのCM等、障がいのある人の視線に立ったお話を聞いていただきました。

○今日のセミナーは「人権」ということで、難しい話かな?:?と思つて少し構えていたのですが、本当にアツいう間の時間でした。「人権」ってこういう毎日の積み重ねの中で育んでいくもので、特別なことなんか何にもないんだなと思いました。

た。

○保育士第1号として、育児休業を取られた男性との経験談とても楽しく聞かせていただきました。最後に、男らしさ、女らしさでではなく自分らしさを大切に!

○まずは単純に感動してしまいました。何でいつもマイナス思考になってしまふのだろうと自分のことを振り返っていました。「何ができる?ではなく、何ができるか」という大切な言葉をもらいました。

「差別の現実を深く認識し、人権尊重の精神に徹した一部落差別をはじめとするあらゆる差別を解消する教育・啓発活動“を確立しよう”を大会テーマとして7月30日に西脇市民会館を主会場として、東播磨大会が開催されました。

加東市同教からは、「共生と人権」の分科会に、発表者として東条西小学校の橋本喜貴教諭、司会者として同小学校の藤原康美教頭、また「企業」の分科会の発表者として、富士通周辺機株式会社事業支援統括部総務部長の一井国宏さんと司会者として株式会社リコーやしろ工場製造部管理課課長の岸本義昭さんにご参加いただきました。

橋本教諭からは、東条西小学校で実施している人権文化創造活動支援事業「まるまるスクール」について、実践をお話いただきました。一井さんからは、自社での人権学習の取組をお話いただきました。

「差別の現実から深く学び生活を高め、未来を保障する教育を確立しよう」を大会テーマに、10月21日・22日の二日間、赤穂市文化会館を主会場として研究大会が開かれました。加東市同教からは、22日に24名が参加しました。

秋晴れのすがすがしい空の同和問題についての取組の実践報告と協議がなされました。

特に企業の分科会では、富士通周辺機株式会社の一井さ

んに、東播磨地区の代表として発表していただきました。社内の人権学習の取組を中心に対応していくか、どのように教育を推進していくことを、いくかといふ力強くわかれやすくお話をいただきました。



第二回目は、神戸常磐短期大学 幼児教育科講師の小崎恭弘さんに「おとうさんの子育て・家族の子育て」と題して、男女共同参画について男性の立場から語つていただきま

りました。

参加していただいた先生方の感想の一部を紹介いたし



学校ではどんなこと 学習しているの?



加東市同教の公開授業を、十月十三日(金)に東条東小学校で実施いたしました。

参加者は、学校教育部員、人権教育担当校長、教育委員等、総勢三十名でした。公開授業は一年一組、大久保雅教諭で、「ほほえみ」から「ぼくつてたからもの」を使っての授業でした。

おがおさん
まさおは おがおさんの
たからものや
つて、いつた。
おがおさん
まことに
なにしてる。
まだできてない。
さつさとしない。
と、しかつてばかりな
に。
きよう
おかあさんに、
「ぼくつて、ほんとうにた
かるもの。」
つて、きいた。
おかあさんは、
だまつて
だきしめてくれた。

教室では、子どもたちの元気な手を挙げる姿がみられました。先生の語りかけるような優しい口調に、子どもたちも自分の普段の生活を振り返って考えていました。最後に、先生の方から、子ども達一人一人に、お母さんからのメッセージが渡されました。

その後の研究協議では、保育園の先生からは、「手紙を受け取る時の子どもたちの表情や読んだときの表情でこの時間の目的が達成されたのではないか」という意見や、中学校の先生からは、「子どもたち一人一人が大切にされているという自尊感情を育てることが見ていて大切であると実感した」との意見もありました。そして、最後に社小学校の藤本校長より、授業者の思いとねらいが明確な授業であった。「抱きしめる」という会話が親子の関係では大切な優しい心を失わず明るく前向きに生きる姿を描いており、その心情を伝えていました。

でもイナゴは
ぼくしか見ていないのだ
エンゼリンをかけたまま
いつもにげられるしせいで
ああ 強い生きものと
よわい生きもののあいだを
川のよつに流れる
イネのにおい!

人権と向き合つ ／違ひを認め合うために／



(28分)

違うという言葉をキーワードにして、作品を展開します。「障がいがある人」「外国人」「ハンセン病」「部落問題」について、当事者の言葉で観る人の心に訴えかけます。

あおぞら
まどみちお

あの山の上で生きている。
一本松の上に。
みんなおんぬじに
青く青くすんで・・・。



ワシントンポストマーチ
(40分)

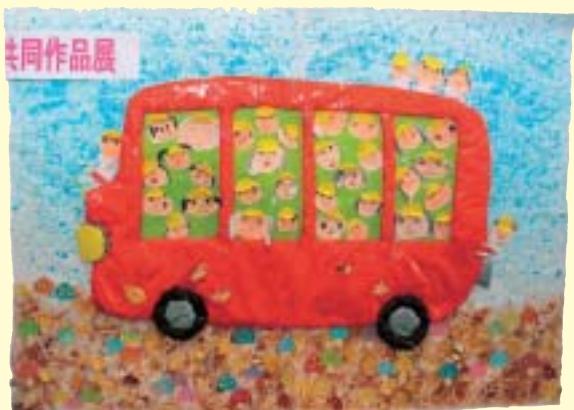
ボエム

新作ビデオ紹介

人権啓発作品展



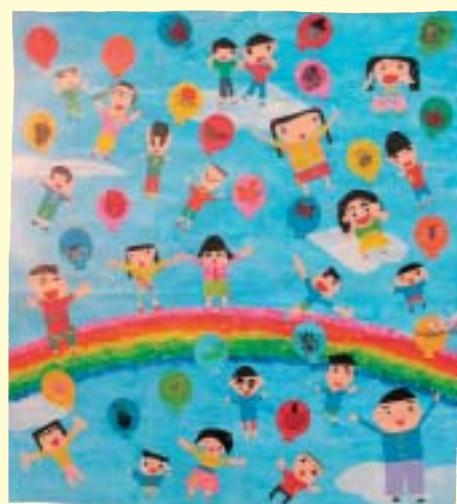
みんなではばたけ！
社保保育園（5歳児）



みんなで乗ると楽しいな
社保保育園（4歳児）

総合文化祭において園児による人権啓発作品を展示しました。人権啓発コーナーで、子どもたちの心に育つ温かい心に触れる事が出来ました。

又、人権標語入り風船を配布しました。



たのしいなかま
椿山保育園（5歳児）



みんなと遊ぶって楽しいな
泉保育園（5歳児）



**みんなの心を
ひとつにあわせて**
米田保育園（4・5歳児）



「火のとり」フェニックスのようにはばたきたいです」(共同作品)

東古瀬保育園 (5歳児) 正覚坊保育園 (5歳児)



運動会で「ハロー・マイフレンズ」をみんないっしょに踊って楽しかったよ
東古瀬保育園 (3・4歳児)



おみずをいっぱいあげてそだてたやさい
「いただきます」
みんなでなかよくなべたらおいしかったよ
「ごちそうさま」
正覚坊保育園 (4歳児)



みんなえがお
三草保育園 (5歳児)



なかよし おともだち
鴨川児童館 (5歳児)



**コスモスばたけに
みんなのえがみ**

コスモス一面の花畠を見て「わ～きれい」と感動した子どもたちみんなの笑顔がコスモスの花のようだったので貼り絵で表現してみました。

天理滝野愛児園



**羽ばたこう
つばさにゆめのせご**

加茂保育所（5歳児）



みんななかよし

河高保育園（5歳児）



みんなともだち

高岡育児園（5歳児）



みんななかよし

いつもの散歩道にある満開のコスモス畠
風にふかれて揺れる姿に、「“ここにちは”って言ってるで。」
なんだかとてもやわらかい気持ちになります。

東条保育園（4歳児）



みんななかよし

みんなで遊ぶの楽しいね。みんななかよし。みんなともだち
大きな木で、みの虫たちといっしょに、ブランコをしたり、木登り
をしたり、すみれ組の子どもたちが元気いっぱい遊んでいます。
あらら・・・木の中では、子どもたちの楽しそうな笑い声を、耳をす
ませて聞いているなかまもいるようですよ。探してみてください。

秋津保育園（5歳児）

**みんなともだち**

仲良しともだちいっぱいできたよ
虹をわたって、元気におはよう
さあ、なかまといっしょに夢にむかってLet's Go !!
若草保育園 (5歳児)

**みんなでいもぼり**

緑ヶ丘保育園 (4歳児)

**みんなでいもぼり**

緑ヶ丘保育園 (5歳児)

**人権標語入り風船の配布**

東条公民館前 (11/4)

**保育園児作品展**

滝野情報交流館 (11/3～11/4)

**保育園児作品展**

東条公民館 (11/3～11/4)

**保育園児作品展**

社中央体育館 (11/3～11/5)



心あったかい フォーラム

「8月10日 ハートの日」



辻本 一英 さん

「春よ こい」

さんばそう
—箱廻し三番叟・えびす舞に思いをのせて—



中内さん演じる「芝原えびす舞」



参加者全員に花鉢をプレゼント！

8月10日、「心あったかいフォーラム」がやしろ国際学習塾で開催されました。講演会は、「春よこいー箱廻し三番叟・えびす舞に思いをのせてー」をテーマに、徳島県から「辻本一英さん（芝原生活文化研究所代表）」を招き、被差別部落に息づいてきた文化がなぜ衰退したのか、時代の波と共にほんろうされた文化の復活を通して人権の大切さを語られました。

《参加者からの感想》

- ・「人権が無くても生きていける人？」こんな質問から始まった講演でしたが、経験を含めて分かりやすい楽しい話でした。
- ・心あったかくなるひと時でした。先生の話も、箱廻しも楽しむことができました。その分、あいだ、あいだに先生が話された幼少期の差別の話が重く心に残っている。すばらしいフォーラムでした。
- ・伝統芸能が差別により失われて行こうとする現実があったことを知り、心が痛みました。
- ・今までで一番良い講演だと思った。人権の幅広いことをつくづく思い知らされました。
- ・差別により、人の心を傷つけるのみならず、大切な文化、伝統までもなくしてしまう。今日は幸せをもらい大変嬉しかった。多くの方に幸せを与えてあげて欲しい。

男女共同参画社会の実現を目指して

～男女共同参画で「協働のまちづくり」～

男女共同参画社会は、男女がともに知恵を出し合い、責任も分かち合いつつ、対等なパートナーとして参画することにより、すべての人の人権が尊重される明るく豊かな社会をめざすものです。

男女が対等で共に輝いて暮らせる「男女共同参画社会」について、多くの人に知っていただくためのセミナーを開催しました。家庭・地域・学校・職場など日々の暮らしの中で、身近なパートナーとのよりよい関わりや、相互理解について一緒に考えました。

少子高齢化など私たちの生活を巡る状況が変化していく中で、私たちがどうすればよいのか。「男は仕事、女は家庭」といったような性別による固定的な役割分担にとらわれずに、この問題に一人ひとりが担い手になって取り組んでいかなければなりません。

男女共同参画は、コミュニケーションを大事にして暮らしを作っていくことが大切であると思います。

女性も男性も、お互いの人権を尊重しつつ、自分に誇りを持って、自らの能力が發揮できる社会をめざしましょう。

第一回 男女共同参画セミナー(9/29)

「男女共同参画の前提条件」 関西大学名誉教授 越川正三さん
(講演会から一部抜粋)

男女共同参画の理念は浸透し法整備も整ってきましたが、これを暮らしのなかに定着させていくためには、いろいろな前提条件が必要です。

日本史の年表をみると、明治以前の歴史が男たちの権力争いの記録で、明治以降は企業競争と戦争の記録のような印象を受けます。いっぽう女性の歴史は歴史書にはほとんど書かれていませんが、それは母親が娘に語り伝える漬物やみそ汁のつくり方、祖母が孫娘に伝えるお灸による病気の治療法やお百度参りなど、苦しい生活史でした。二極化してしまっているこの男女の歴史を一本化することが第一の前提条件です。これは、日常生活で言うと、男性が家庭や地域での日常生活に関心をもつようになることです。男性が育児休業を取るなど、仕事と個人生活とのバランスを取る感覚が男性の側に求められているのです。

上に述べた二極化は、意外なことに今の若い人たちの生活感覚に案外根強く残っています。例えば新聞社などが行う青少年の「将来やりたい仕事」のランキングでは、男性は研究者を始め公務員、医者、警察官。女性は保育士、美容師、看護師となっています。女性には福祉や奉仕系統の職業を希望する傾向が強く、社会における役割分担が歴然と残っていることが分かります。大学の文系は女性向きで理系は男性向きという感覚は、学生数にはっきりと表れています。女子大学生のなかには結婚相手として「頼り甲斐のある男性がいい」と答える人が多く、男子学生には「素直な女性がいい」という回答が多い。ここには異性に「男らしさ」「女らしさ」を求める古い感覚が感じ取れます。

共同参画社会を構築する前提として、私は男女の一人一人が構想力をもつべきだと考えています。不平等な社会では上位の者が下位の者に命令しておればよいから、どちらにも構想力はあまり必要ではありませんでした。そして、そんな社会は停滞しているかわり安全でした。しかし平等な社会では、構成員がそれぞれの立場で判断して参画することになりますから、構想力あるいは企画力がなければ組織は機能しません。



例えば職場で男性の上司がセクシュアル・ハラスメントについての弁えがあり、どれほど気を使ってくれても、女性の仕事の能力を認めなかったら、女性の部下は能力を發揮できません。部下の能力を知って活かしきるのが、構想力です。上司に構想力や企画力が欠けていたら、部下はついていかないでしょう。この構想力は、男女がともに仕事の経験を積む過程で会得していくべきものです。

次に、一人一人に豊かな想像力が必要です。これは他人の立場に立って物事が判断でき、自分たちの生活状況についても柔軟に方針が決められる能力と言ってよいでしょう。妻は家庭で夫はお勤めというのはよくないと言われますが、これを公式として受け止めてしまうのもよくありません。夫婦のどちらかの収入でどうにか家計が維持できれば、一方が家事専業というほうが育児にもよいでしょう。家事に専念している妻が地域の活動に参加して、休日に夫や子どもを地域活動に誘うということもあるでしょう。長いライフ・ステージの中では、夫が家事を専業とし妻がお勤めをすることが起ります。

最後に、男女共同参画は企業が積極的に勝ち取る姿勢で臨まなければ実現しません。

「国民白書」によりますと、国民が理想とする子ど�数が約2.5人ですが、毎年発表される合計特殊出生率は約1.2人前後です。これは、望み通りの数だけ子どもを産める環境が整えば、出生率の回復が見込めるということを示しています。出産を阻害しているのは、企業の雇用条件でしょう。これの解決は、企業と政治に期待しなければなりません。

第二回 男女共同参画セミナー(10/27)

「地域で家庭で男女共同参画」男女共同参画はなぜ必要なのか？

北播磨教育事務所 人権教育推進員 茂木美知子さん

甥の結婚式で軽井沢に行った。久しぶりに出会う甥は、茶髪で、スーツの似合うかっこいい若者になっていた。甥は公立病院の看護師。上司で祝辞をのべられたのは、外来コーディネーターと言う名称の、黒いスーツの似合う颯爽とした女性。後できけば医師だという。男も女もその適性や能力により職業が選べるようになり、チームのなかで仕事をすることも、男だから女だからという枠や縛りから自由になりつつあることを実感する。

以前は「男が看護師なんて…」ともらしていた人たちも彼の晴れ姿に安心したようだが、まだまだ男と女の職種には差があるようだ。弟が先に結婚し、姉はエンジニアとして企業でがんばっていても、同じ席で「仕事より、いい人を早くみつけろ」と言われたりする。

一方では、高学歴や女性の社会進出が少子化を招いたかのような主張があり、「女たちよ、結婚せよ、こどもを産め、家に帰れ、」というコールも多い。世の中のいろいろな問題、少子も、いじめも、犯罪もみな、女のせいとばかり「昔はよかった」という声も聞こえる。

しかし、本当に昔は理想的な家庭があり、家族が存在したのだろうか。
もちろんいつの時代にも、お互いが助け合い、理解し合える理想の家族は存在する。

しかし、なかには表面上理想にみえても、誰かが犠牲になっていたり、決まり切った役割の中で選択の余地がなかったり、世間体だけで見せかけの家族をしている家族もいる。今はカップルの成立そのものが多様になった。地域社会以外のところで出会い、結婚することも多い。

さまざまな価値観や、生育歴、地理的な条件などを超えて新しい家庭を築こうとするカップルが増えている。その時に一番の根っこにしなければならないのは、男だから女だからと言う規範ではなくに、人間としてお互いを大切にし尊重することがスタートだろう。

子どもを産み育てることも同じ。一人一人が、生まれてきてよかった！と実感できる育ちができるよう、まわりの大人们が、育んでいくこと。女だけ、男だけではなく、女も男も、いのちを育むことに関わることが当たりまえの世の中にしたい。



「戦争の残骸」



社中学校
2年 黒田 飛鳥さん

太平洋戦争が終結し、今年で六十年余り、戦争を体験された方も高齢になり、現在の生活や私たちの世代では、昔のことといった戦争を知らない人たちの割合が増え、日々風化していると思います。しかし、現在もなお、戦争の傷あとに苦しめられ、不自由な生活を余儀なくされている方があることを知りました。それは、七日の初めの新聞の記事でした。

中国残留日本人孤児が国の責任を明確にと訴訟したことが載っていました。

私は、二年前の夏休み沖縄へ行って学んだ平和学習の経験を語り、平和について考える「平和のつどい」に参加しました。沖縄で知った戦争は、私に衝撃を与え、沖縄では沢山の子どもたちが犠牲になったことを知り、二度とこのような悲しい思いは誰もしてはいけないと強く思いました。

その「平和のつどい」で「えっちゃんのせんそう」という映画を観ました。戦争中、中国（満州）に移り住んだ主人公のえっちゃんの実話です。当時の日本人は、中国人を一段下のランクをつけて同じ人間の扱いをしていなかったので、傷つけたり食料を分けなかったりと、ひどいことをしていました。そして日本が戦争に負けた時を境に状況は一変します。中国人に住む所をうばわれたり、ロシア兵にとらえられたり、身を隠して生きていかなければならなくなりました。やがて、日本に引き揚げるまでに幼い弟を中国人の夫婦に預け、離ればなれになったり、途中で食料がなく飢えや病気になって亡くなったりして幼い子どもたちがたくさん犠牲になりました。親が亡くなった孤児たちは中国で中国人になって生きていかなければならなかったのです。私は新聞を読んで、えっ

さんの姿が原告の方たちとオーバーラップして鮮明にその映画が思い出されました。どんなに敗戦後の異国で家族を失い、生きるために苦労なさったでしょう。中国で日本人だというだけで疎外され、やっとの思いで帰国をすれば、日本人でありながら日本語を知らずに職にもつけなくて、いじめられ生活の保障もない。生きていながら、戦争というものに今もなお、苦しめられているのです。戦争は生きのびるために人の心も壊してしまいます。戦争によって追いつめられた人々の心を被害者が加害者か裁くのは難しいけれど、罪もなく人権を取りあげられた人々は戦争の被害者には違いないと思います。

そして戦争中に同じように日本人が中国人や他の国の人たちにした行為は決して忘れてはいけないと思います。中国にも、えっちゃんが沢山いるはずです。今、この時にも核兵器が開発されています。罪もない子どもたちが空爆などにより尊い命をなくしています。

どうして人は命を大切にできないのでしょうか。どうして憎しみあうのでしょうか。

私は、一日も早く、世界中が平和になり、共に生きる喜びを分かち合える日が来ることを祈ります。ひとりでもあの時のえっちゃんをつくらないために。



“GOD BLESS YOU”



兵教大附属中学校
3年 時政 里紗さん

私は、国際平和について一つ疑問に思っていることがあります。それは、大抵の人が平和の反対は戦争・貧困という概念にとらわれていることです。と言っても、つい最近まで私自身もそう考えるうちの人でした。しかしある程度、戦争・貧困のある国は平和だとは思えません。では何故私たちはそのような概念にとらわれてしまっているのでしょうか。そもそも戦争の原因・貧困の真意とは何なのでしょうか。私はそれについて考えることで、更に国際平和に対して関心を持てるようになると思い、考え、調べてみました。

戦争が暴虐で平和とかけ離れたものであることは誰もが知っていることだと思います。しかし、みなさんは原因は何か、考えたことはありますか。理由は様々かもしれません、その一つとして私は次のように考えました。

「戦争は、貧しさから物資の不足等で村同士が対立。それが国内内戦へと広がっていく」ということです。しかし、マザー・テレサについて書かれた本に、次のように書かれていました。「戦争とは決して貧困が原因ではない。そして、戦争の原因は二つ挙げられる。一つ目は『人間や社会集団間の支配や格差の増大。そして、正義・不正が問題になり対立する。』ということ。二つ目は『人間内部の他人・他者を支配することによって自分の自由が増大するという感情が生まれる』ということである。」というのです。二つ目の原因は、人間が持つ基本的な感情である。「権勢欲・支配欲」の事を示しています。そして、それは人間なら誰でも戦争原因の要素を含んでいるということを意味しています。私は、私がはじめに考えた「原因」と全く逆の内容がその本に書かれていたこと、つまり、戦争の原因は貧困ではないということに驚きました。

次に、貧困の真意についてです。私は貧困とは物資等が不足し、生活に支障が出ることだと思っていました。しかし、その本には、「貧困とは、

社会の中で人間として生きる権利を奪われること。」と書かれていました。

私は、戦争の原因と貧困の真意について考え、調べた結果、自分の考えの浅はかさを知りました。そしてその二つの課題の共通点に気付きました。それは“人間性”です。私の発見は、考えてみればとても単純で当たり前の事ですが、とても大切なことで人の心の原点なのだと思います。

ここで、私が一番はじめに書いた疑問点を日本に当てはめて考えたいと思います。もし、平和の反対が戦争・貧困であれば、日本は平和と言えます。しかし、現在日本では犯罪が増加しています。実の両親を傷つける人や実の息子、娘を傷つける人。そして、自ら自分の命を絶とうとする人・・・この現状は果たして平和だとしているのでしょうか。先程の本に「物を増やせば増やすほど自由は増大するという世界認識が広がっている。」とありました。まさに日本はそう考える国一つです。その結果、モノが豊かになると反比例して人間性が乏しくなってきているのです。

物資が不足している国には、食糧や生活に必要な物資を送れば“平和な国”になるかもしれません。しかし、最近の日本のように凶悪な犯罪が増え、物質的に飢えているのではなく、人間としての尊厳を失っている“貧しい人々”を救うことは容易なことではありません。心を癒すのは心、そして心を伝える術である言葉です。

かつて、マザー・テレサは“GOD BLESS YOU”と言って手をとり、大勢の人を救いました。人間性をなくし、間違った道を進もうとする人に“神の祝福があなたにありますように”と手をとるのです。そしてその心が今、この国には必要だと思います。物質的な豊かさだけではない、物心両面の豊かさのある国、そしてそのような世界になるように私自身、温かい心や言葉を持った人になりたいと思いました。

「人権を守る大切さ」



瀧野中学校
2年 西山 陽介さん

人権を守る上で僕が、一番大切なことは、困っている人がいたら、すぐにその人の気持ちになることができ、行動できることだと思います。そして、そのような面を一人一人が、持つことが大切だと思います。僕がこのように思った理由を今からお話ししたいと思います。

僕にはわすれられないシーンがあります。二年前、僕がまだ小学校六年生のときのことです。小学校最後の思い出づくりになる修学旅行のグループ決めをすることになりました。そのグループは、四人で一つのグループをつくらなければなりませんでした。仲良しの三人は、すぐに集まつたのですが、あと一人を誰にするかで迷ってしまいました。次々と、グループが決っていく中で、一人だけ自分の席に座ったままの子がいました。A君です。僕は、正直「あいつか」と、思いました。ほかのグループが、A君に声をかけないか、しばらく全体の様子を見ていました。でも、だれも、その子に声をかけようとはしませんでした。だから、三人で相談して、A君と一緒に四人グループで修学旅行に行きました。実際、修学旅行は四人で行って楽しかったです。それは、普段の学校生活では見られないA君の違う一面が見られたからかもしれません。

二年後、僕はこの作文を書きながら考えました。なぜ、二年前のグループ決めでA君を誘ったのだろうか。A君にも「修学旅行に行って、たくさんの思い出を作りたい。」という思いがあることを僕はよく分かりました。誰でも考える、そのような気持ちを、どうして、クラスのみんなは、分からなかったのでしょうか。僕はその気持ちが分かったから、声をかけました。声をかけたのが、たまたま僕達が一番で、ほかにも声を掛けようとしたグループがあつたかもしれません、ほとんどのグループが、A君を無視して、グループを決めていました。ほかのみんなは、A君が席に座っている姿が見えなかつたのでしょうか。そんなことはないと思います。誰からも声を掛けられず、一人で座っているのが、もし自分だったらと思うと、僕はたえられません。そう思

うことができたから、声を掛けたのだと気付きました。でも、その時、僕の思ったことは「かわいそう」ということでした。「かわいそう」という感情は、今よく考えてみると、これは、相手の立場に立って考えたと言えるのでしょうか。「かわいそう」という感情は、相手に同情しているだけで、相手の立場には立っていないと思います。なぜかというと、自分が、かわいそうと言われたら、悔しいからです。今、改めて、相手の立場に立つことの大切さ、難しさが分かってきました。

相手の立場に立って考えることは、ただ「かわいそうだ」というふうに、同情するだけではないと思います。同情することも大切だけど、それだけでは、相手の立場には立てていないと思います。相手の立場に立つためには、純粋で、素直な気持ちになることが、大切だと思います。

中学生になって、一年生の冬、スキー教室に参加することになりました。もちろん、そのスキー教室でもグループ決めをします。スキー教室でのグループ決めは、とてもスムーズに、けんかも、仲間はずれもなしで決めることができました。小学六年のときから一年間で、僕達は、少し成長したのかもしれません。

人と人との関わりの中で、仲間というのはとても大切だと思います。自分と気の合う友人同志の仲間もあるけど、地域での仲間や、部活動の仲間、大人になったら仕事でのグループにも入らなければならなくなるでしょう。そのときは、必ずしも、気の合う人ばかりではないと思います。でも、目標を持って、一つのことに取り組むグループには、チームワークがとても大切だと思います。相手の気持ちになって考えることは、自分の気持ちだけを言うのではなくそのグループにとって、何が大切か考え、自分にできること一生懸命やることではないでしょうか。それが人権を考えることにつながると思います。

これからはもっと、広い視野で、まわりを見て自分の役割を考えていきたいと思います。

『思いやる』ことの大切さ



東条中学校
3年 坂辺 千明さん

私は夏休みに、デイサービスセンターの夏祭りのボランティアに参加しました。中学生になって三回目です。今年も昨年と同じで、ヨーヨー釣りやゲームなどの店番かなあと思っていたら、今年は、おとなのボランティアの方の人数が足りなかつたので、「利用者さんのお手伝いをしてください。」と、言われました。私は、二年生の時に、トライやる・ウィークで、デイサービスセンターへ行きました。ですから、お年寄りの介助や接し方を少しは経験していましたが、それでもとても不安に思いました。しんどそうやな、店番の方が気楽やな、という気持ちでした。でも、私が担当する利用者のおばあさんの所へ行くと、おばあさんは私を見て、にっこりされて、「宜しくね。」と言ってくださいました。途端に、がんばろうという気持ちになりました。

アイス、たこ焼き、ちらし寿司などを一緒に食べました。食事中、お茶のカップが倒れそうだったのでよけてあげたりしました。ゲームの場所までの移動や、ゲーム中、手が届かないものを取ってあげたりもしました。初めは緊張して、あまり話せなかったけれど、一緒にいろいろなことをするうちに、「何か食べたいものはないですか。」「おいしいですね。」と、だんだんと話せるようになりました。最後に、「ありがとう。今日は楽しかったよ。」と利用者さんが言ってくれました。私は、

介助のお手伝いをしてよかったと思いました。しんどそうや、とはじめ思っていた自分が恥ずかしくなりました。利用者さんと夏祭りに参加してとても楽しかったし、本当によい体験になりました。

私には、利用者さんと同じ年くらいの祖父と祖母がいます。「つい言い過ぎてしまったなあ」と後悔するようなことを言ってしまいます。それに、用事を頼まれても、なかなかすぐにはできませんでした。「なんで、こんなことせなあかんの。自分でしたらええやん。」と、いつも思っていました。自分のことだけ考えていました。

でも、祖父の調子が悪くなり、少しだけ手伝いをした時に、祖父の世話をすることの大変さや苦労がわかった気がしました。「おばあちゃん、なんかしたろか」の一言が言えるようになりたいと思います。家族の間でも、相手のことを考えた行動ができるようになりたいです。

友達や家族、そして地球の人、いろいろな場で、私たちはいろいろな人とふれあって生きています。相手の身になって考えられる、相手の気持ちを思いやれる、そんな気持ちをいつも大切にしていきたいと思います。





人権トピックス

12月4日から10日までの1週間は人権週間です



～生きがいと幸せを築きあう人間尊重のまちに～

加東市では、同和問題をはじめ、女性、子ども、高齢者、障害者、外国籍の人など、あらゆる人権問題の解消に向け市を挙げて取り組んでいるところです。

12月の人権週間にちなんで、すべての住民がお互いの人権を尊重しあい、共に生きる明るい社会を築いていくため、人権を考える市民のつどいを開催します。

人権を考える市民のつどい

花鉢プレゼント

☆ 日 時 平成18年12月16日(土) 午後1時30分から午後3時30分

☆ 場 所 滝野文化会館 大ホール

☆ 内 容 ◎ 人権弁論「人権週間にちなんで」

- ・ 社 中学校 2年 黒田飛鳥さん「戦争の残酷」
- ・ 附属中学校 3年 時政里紗さん「GOD BLESS YOU」
- ・ 滝野中学校 2年 西山陽介さん「人権を守る大切さ」
- ・ 東条中学校 3年 坂辻千明さん「『思いやる』ことの大切さ」

◎ 講演「今、問われる大切なものの 子どもたちからのメッセージ」



講師 千葉絢子さん（歌手・篤志面接委員・保護司）

プロフィール 全国カンツォーネコンクールで優勝し、昭和46年に歌手デビュー。『折鶴』、『宗谷岬』等のヒット曲で知られる。歌手活動の傍ら、全国三箇所の少年院の篤志面接委員を務め、非行を犯して収容された少女たちの心のうちを長年にわたって聴き続けている。

☆ 問い合わせ 加東市市民生活部 人権推進課 TEL 48-3598

特設人権相談所開設案内

あらゆる差別・近隣間のもめごと・いじめ・セクハラなど、人権問題でお困りの方は、お気軽にご相談下さい。秘密は厳守します。（相談時間はいずれも、午前10時～午後3時）

☆ 問い合わせ 神戸地方法務局社支局・社人権擁護委員協議会 TEL 42-0201

● 相談日 ●

- 12月4日(月)
6日(水)
8日(金)

● 場 所 ●

- 滝野福祉センター
東条公民館
社福祉センター

街頭啓発活動

☆ 日 時 平成18年12月5日(火) 午後4時30分から

☆ 場 所 やしろショッピングパークBio

☆ 内 容 ミニカレンダー等を配布します

編集後記

人権情報誌「夢きらめいて」が8月にスタートしました。市民の皆さんに、共感、学び、そして気づきの場として、心温まるような人権に関する話題を提供したいと考えています。